14-4 口腔軟組織疾患　口内炎（こうないえん）
白板症（はくばんしょう）
扁平苔癬（へんぺいたいせん）
舌がん（ぜつがん）

口内炎とは、口の中の粘膜に起こる炎症をまとめて「口内炎」という。

◇アフタ性口内炎－口の中に傷を作ったりした場合、体力低下に伴い口腔内の免疫力も低下することで、炎症を起こす。

◇カンジダ性口内炎－口の中で、カンジダというカビ(真菌)の一種が増殖することで起こる口内炎。糖尿病や血液疾患などの何らかの基礎疾患がある人や、抗生物質、抗菌剤の長期使用、身体の抵抗力の低い人に発症する。

◇白板症－ほかのいかなる疾患とも見なされない白色が優勢な口腔粘膜の病変。５０～７０代に多い病気で男性は女性の２倍。長期間経過すると癌化することもあるので経過観察は重要。

◇扁平苔癬－皮膚や粘膜にできる角化性で炎症を伴う難治性の病変。

◇舌がん・歯肉がん－口腔で発生するがんの半数は舌がん。虫歯や入れ歯の不適合による慢性的な刺激も原因の一つと考えられている。口腔のがんは進行とともに頸部リンパ節などに転移する危険性がある。

主な症状

アフタ性口内炎

- 口内に、表面が白くクレーターのような形の潰瘍ができ、周囲は赤く、痛みを伴う。

カンジダ性口内炎

- 頬の内側や口蓋、舌などに、白い苔のようなものが点状に出てくる。白い苔は、ガーゼなどで触れると簡単に剥がれ、剥がれた後は、赤く炎症を起こしたり、出血が見られることもある。白い苔は、悪化すると剥がれにくくなる。

白板症

- 口の中の粘膜や舌などに、こすっても取れない白斑が生じる。

扁平苔癬

- 頬粘膜や舌、さらに口唇にもできやすく、白い粘膜疹かレース状にみられるのが特徴。

生活上の留意点

- 高齢者の口内炎は義歯を原因とするものが多数をしめているが、他の重要な粘膜疾患の場合があるので、気がついたらすぐに受診する。
- 確定診断には、総合病院等の受診が必要な場合があるが、まずはかかりつけの歯科医を受診し、医療機関を紹介してもらう。

ケアマネジメントのポイント

【訪問歯科診療】

基本的には、訪問歯科診療で行われる内容は、外来で行われるものと同じだが、治療時の姿勢の保持や照明等、制約のある中で行われるので、治療内容によって診療所で受診するが必要な場合がある。また、全身状態を把握するために、かかりつけ医や入院時の主治医などと外来診療以上に密な連携が求められる。

【訪問歯科衛生指導】

訪問歯科診療を行った歯科医師の指示に基づき、歯科衛生士、保健師、看護師又は准看護師が訪問し、療養上必要な指導として、患者又はその家族等に対して、患者の口腔内での清掃(機械的歯面清掃を含む)又は有床義歯の清掃に係る実地指導を行う。

代表的な薬

- 口内炎等治療薬（ケナログ、アフタッチなど）
- 含嗽(がんそう)薬（アズノールなど）
- 深在性・表在性抗真菌薬（フロリードゲル、イトリゾール液など）